

ふーぬ風

発行 〒901-1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL : (098) 889 - 3515
FAX : (098) 835 - 6010

平成29年度 沖縄県指導農業士認定者紹介



平成 29 年 9 月 13 日に沖縄県男女共同参画センターにて沖縄県農業士等の認定式が行われ、南部地区から指導農業士 2 人が認定されました。今後も地域農業のリーダー、農業青年や新規就農者の指導者としての活躍が期待されます。

(前列左から 2 番目より、JA おきなわ南大東支店長 比嘉元美氏、指導農業士 玉城克也氏、指導農業士 屋嘉比康雄氏、南部地区農業士会 新田眞佐樹氏、南部地区農業士会 國吉正治氏)



指導農業士第 323 号
【屋嘉比 康雄】

南大東(カボチャ・さとうきび)
JAおきなわ南大東支店にて、野菜生産部会長を務めています。組織活動に積極的に参加し、カボチャ産地の発展に努めてきました。今後も、地域活性化に励みます。



指導農業士第 324 号
【玉城 克也】

南大東(さとうきび)
南大東村さとうきび生産組合の幹事として、さとうきびの生産振興に貢献しています。また農業委員も務めており、今後も地域農業の発展に励みます。

11月・年末出荷に向けたキクの病害虫対策 ～アザミウマの生態と薬剤の選び方～

キクの栽培期間を通して病害虫対策に悩んでいる生産者の方々も多いのではないのでしょうか。「**薬剤散布しているのに被害が収まらない…**」と
思っている方に、今回はアザミウマ(スリップス)に関する知見と薬剤
に対する抵抗性を考慮した薬剤の選び方について紹介します。



クロゲハナアザミウマ



針でひっかいたような傷跡

○アザミウマの生態について

キク栽培での主要種は「クロゲハナアザミウマ」とされ、それ以外にも「ミナミキイロアザミウマ」などが**葉に加害**し、品質を落とす要因
になっています。対策には薬剤の定期的な散布も重要ですが、それに加え
て畑や株の状態を観察して**防除のタイミングを把握**することが重要です。

図 1 の生産者は親株から定期的に防除を実施して、本畑
でもアザミウマの発生数や被害を抑えていましたが、10月
12日以降は翌年3月のお彼岸出荷用キクの準備等で**薬剤
散布間隔が広くなり**、その間に**アザミウマの発生数と葉へ
の被害が増**えてしまいました。

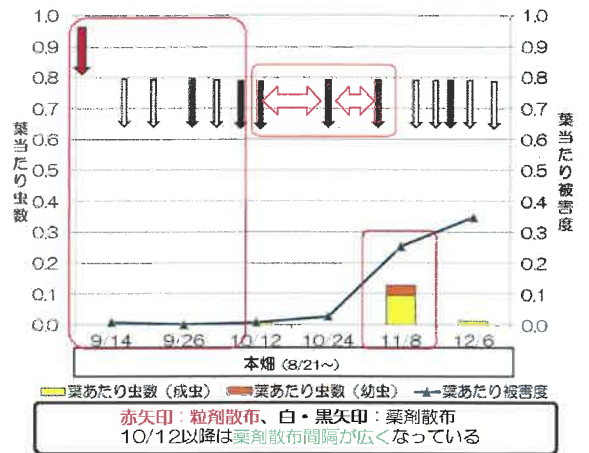


図 1. 年末出荷用キクは場のアザミウマ発生数と被害度の推移



図 2. クロゲハナアザミウマの発育速度
(10月的那覇市平均気温による生活環)

上記の結果に加え、6～10月の平均気温で生育させた「クロゲハナアザミウマ」の生活環(卵から成虫羽化)は15日以下となることが農業研究センター(図2、※10月の生活環)から報告されており、6～10月は**防除のタイミングを見極めることが重要**となってきます。

薬剤抵抗性を考慮した薬剤の選び方について

近年、薬剤抵抗性を考慮して病害虫対策を実施する上で利用されている「IRAC(アイラック)」、「FRAC(エフラック)」について紹介します。これらは薬剤を有機リン系、ネオニコチノイド系等で分けるのではなく「**病害虫のどの部分に効果を示すか**」で薬剤の種類分けをしています。

- ★ IRAC …害虫防除の指針
- ★ FRAC …病害防除の指針

※ IRAC 等については農業工業会の HP で確認出来ます。

冬春期のゴーヤー栽培のポイント (害虫編)

ゴーヤーの促成 (冬春期) 栽培において、単収を増やすには、病虫害の発生を抑え、収穫期間を延ばす事が重要です。今回は、ゴーヤーに発生する害虫の防除について紹介します。

(ゴーヤーに発生する主な害虫)



ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ワタアブラムシ ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)

特に、アザミウマ類、コナジラミ類は化学農薬に対して抵抗性を獲得しつつあり、既存の農薬だけで発生を抑えることが難しくなっています。これらの害虫の基本的な防除方法として、

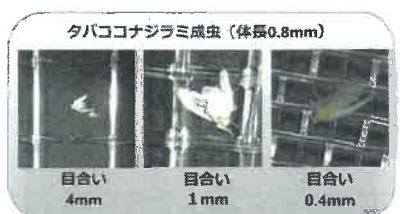
「入れない」「増やさない」「出さない」

の 3 つのポイントを理解し、各種防除方法を組み合わせ、効果的な害虫対策を行いましょう。

害虫を「入れない」

- ・防虫ネットは 0.4 mm にすると防虫効果は高いです。(0.4 mm 目合いにした場合、通気性が悪くなりますので、こまめな換気が必要です。)
- ・出入り口にも、防虫ネットによるカーテン (入口 2 重カーテン) を設置しましょう。
- ・ハウスの被覆にも、紫外線カットフィルムを使用すると、抑制効果が高まります。
- ・ハウス内外の除草を徹底しましょう。上記の害虫は、雑草で増殖し侵入します。ハウス内を農薬散布しても、ハウス内に雑草があれば、そこに隠れており、次の発生源となります。

害虫の大きさとネットの目合いの比較

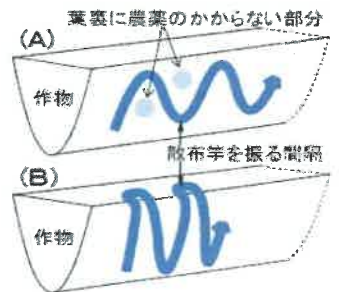


害虫を「増やさない」

- ・定植時には粒剤を散布しましょう。(ラベルに「土壌混和」と書かれている農薬の場合、植穴または株元に、規定量の農薬を散布した後、軽くかき混ぜ土となじませましょう。)
- ・薬剤散布は下位葉や葉裏にかかるようしっかり散布しましょう。
- ・系統の異なる薬剤をローテーションで散布しましょう。(農薬を散布するときはラベルを見て、使用基準量を確認しましょう。)
- ・害虫のついた葉およびつる (残渣) を取り除いた場合は、通路や畦に落とさず、施設外に持出し、適切に処分しましょう。

害虫を「出さない」

- ・摘葉、摘果した残渣は、穴を掘って埋めるか、できない場合は古ビニール等をかけておきます。残渣が次の発生源となる可能性が高いです。
- ・収穫終了後は、ハウスを締切った後、株元を引き抜き、完全に枯死させます。(雑草が残っているとそこに害虫が移動するため、除草も行いましょう)
- ・3月以降であれば、施設内を蒸し込むことで、より効果的です。



理想的な農薬散布方法(B)

食品衛生管理の基本は『5S活動』

食品衛生の基本は、常に「清潔」に保ち、作業を「迅速」に行うことです。これを実践するのに欠かせないのが「5S活動」です。5Sとは「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「習慣」であり5つをローマ字にした時の頭文字の「S」(Seiri, Seiton, Seisou, Seiketsu, Shuukan)をとって5Sと名付けられました。

5S活動を実践し、食品の製造環境と製造機械や器具を清潔にすることで、食品の二次汚染や異物混入を予防することができます。

5S活動とは(毎日の欠かせない活動)

- 整理** 要らない物を片付ける（置かない）。
整頓 置く場所を決め、管理する。
清掃 汚れがない状況にする。
清潔 整理、整頓、清掃ができていて、キレイな状態を保つ。
習慣 ルールを作り、ルール通りに実施することを習慣化する。

簡易チェックしてみましょう！

1	加工所に不要なものを置いてませんか	
2	道具の保管場所を決めていますか	
3	作業器具を直置きしていませんか	
4	石鹸・ペーパータオル・消毒薬を備えていますか	
5	布巾・包丁・まな板は消毒し、乾燥していますか	
6	原材料や包材等は容器に入れて保管していますか	
7	防虫網は破れていませんか	
8	ゴミ保管場所から汚液が出たり悪臭の原因になっていませんか	
9	1日の作業終了後に、加工室(床・排水溝を含む)の清掃をしていますか	
10	爪は短く切り、指輪など装飾品は外していますか	

アグリチャレンジ講座の開催

農業の6次産業化に取り組む担い手を育成するアグリチャレンジ講座を開催しています。今年、パッションフルーツやマンゴの拠点産地である糸満市果樹生産農家6名を対象に実施しており、6次産業化についての講話と商品化計画書を作成するワークショップからスタートしました。続く第2回講座は、「農家発信の商品化」のヒントを求めて、6次産業化の提案や原料1次受託加工を行う「ティーエスプラント(有)」を視察しました。アグリチャレンジ講座を通して、加工起業に必要な情報収集や農家交流ができる場づくりを目指しています。農業者による起業活動に興味のある方は、普及センターまでご連絡下さい。



水

元気な子牛に育てよう!

健康な子牛 & 育成牛の育成ポイントのひとつ。今回は「水」のお話。

子牛であっても、**新鮮な水がいつでも飲めることが大切です**。子牛の体は**70%が水分**です。代用乳(ミルク)からの水分だけでは、体を維持することができません。



哺育期間中の飲水量は夏季**2.0~4.2L/日**、冬季**0.3~1.0L/日**の量を必要とします。水が十分飲めれば、スターターの食い込みもよくなります。

気がついたら水がカラ、汚くて飲めない、といったことがないようにしましょう。写真のように、スターターと水のバケツの感覚を広くとることで、水の汚れをちょっとだけ、防ぐことができます。

メモ

- 1 バケツを備え付け、常時新鮮な水が飲めるように!
- 2 バケツの水は汚れやすい!
毎日、水は交換 & バケツは洗おう!
- 3 ミルクと水の給与間隔は、できれば30分以上あける!

第10回 沖縄県マンゴーコンテストで 南部地区が快挙!

平成 29 年 7 月 27 ～ 28 日に第 10 回沖縄県マンゴーコンテスト品評会及び表彰・展示・試食会が行われ、51 点の出品物の中から、最優秀賞である県知事賞に八重瀬町の宇座徳栄さんのマンゴーが選ばれました。宇座さんは初出品で最高賞を受賞するという快挙となりました。今年度は新人賞と団体賞が新たに創設され、新人賞に南城市の石崎亮さん、団体賞に豊見城市が選ばれ、11 賞のうち 8 賞を南部地区が受賞するという喜ばしい結果となりました。出品物につきましては、果実全体に紅色が充分に乗った果実が多く、玉の大きさや色のりも均一で贈答用にふさわしい荷姿でした。糖度審査の項目では、全体的に糖度が高く、平均で 15.0 度（昨年度 14.8 度）あり、最高糖度 17.7 度（昨年度 17.7 度）の出品物がありました。生産者の努力やこれまで指導を行ってきた指導員の尽力の賜であると同時に、近年補助事業で導入されている加温機や循環扇による効果も大きかったと評価できます。ライカムで行われた表彰・展示・試食会では、『真っ赤ですごく甘い!』とお客さんの反応も良く、県産マンゴーの美しさと美味しさを大いにPRすることが出来ました。

第10回 沖縄県マンゴーコンテスト 受賞者名簿				
賞名	受賞者	品 種 名	市町村名	特 別 賞
最優秀賞	宇座 徳栄	アーウィン	八重瀬町	沖縄県知事賞
優秀賞	サンフルーツ糸満 山城 裕樹	アーウィン	糸満市	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部長賞
	長嶺 篤	アーウィン	豊見城市	沖縄県農林水産部長賞
	大城 正則	アーウィン	豊見城市	沖縄県農業協同組合 代表理事理事長賞
	サンライズファーム 大城 大輔	アーウィン	宜野座村	沖縄協同青果株式会社 社長賞
優良賞	大城 良彰	アーウィン	豊見城市	沖縄県青果卸売協同組合 理事長賞
	喜屋武 和徳	アーウィン	今帰仁村	沖縄県中央卸売市場売買参加者協同組合 理事長賞
	山城 幸信	アーウィン	糸満市	沖縄県農業共済組合組合長理事賞
	羽地 功	アーウィン	石垣市	沖縄県果樹フェスティバル実行委員会会長賞
新人賞	石崎 亮	アーウィン	南城市	沖縄県果樹フェスティバル実行委員会会長賞
団体賞	豊見城市	アーウィン	豊見城市	沖縄県果樹フェスティバル実行委員会会長賞



写真1 受賞者の皆様



写真2 県知事賞受賞マンゴー

結成 40 周年を迎えた 南大東村農業青年クラブの紹介



南大東村農業青年クラブは、昭和 52 年 8 月 20 日に結成し、今年で結成から 40 年を迎えました。これを祝して、8 月 11 日に南大東村多目的交流センターにて 40 周年記念式典を開催しました。式典には青年クラブ員 OB をはじめとして、南大東村長、村議会議員、南大東村駐在普及員 OB など約 40 名が参加しました。



当クラブは、プロジェクト活動・視察研修の他、島内イベントでの苗等の販売、活動広報誌「びろう樹」の発刊など様々な活動を行っており、平成 26 年度には「さとうきび株出栽培での補植改善」というプロジェクト活動で、全国青年農業者会議にて農林水産省経営局長賞を受賞しました。また、クラブ員 OB が、村議会議員や農業委員、生産部会や法人の代表を務めるなど、地域のリーダーとして活躍しており、農業青年クラブは担い手育成の場として重要な役割を果たしています。今後も、関係機関と連携して様々な活動に取り組んでいきます。

(南大東駐在 当真 央)

八重瀬町の農業を支える頼もしい平良真也さん

八重瀬町でピーマンとかんしょ、ぐしちゃんいい菜を栽培している平良真也さん(写真左)は、小さい頃から農業が好きで、将来は祖父母の農業を継ぎたいと思っていたようですが、一旦はサラリーマンとして働いた後、15年前に就農しました。

就農当初は露地野菜やかんしょを中心に栽培していましたが、補助事業を活用し昨年からピーマン栽培(600坪)を始め、現在は経営の軸はピーマンとなっています。しかし、これまで栽培していたかんしょ栽培への想いも強く、1,100坪の畑で青果用のかんしょ栽培に意欲的に取り組んでいます。

真也さんは、JA野菜部会の支部長やいも部会の副部会長の傍ら、青壮年部の部長も務めるなど、地域のリーダーとして活躍しています。農家同士のつながりを大事にし、先輩からは技術を学び、後輩には積極的に声かけする姿勢が、周囲の農家の信頼を得ています。

そんな真也さんに心強い味方ができました。長男の諒真さん(20歳)が就農し、共に汗を流しています。諒真さんは小さい頃からよく畑に行っていて、将来は農業をしたいと思っていたそうです。農業の大変さはうまく育たない時、でも、作物を育てて収穫する時は楽しいですと笑顔で語る諒真さん。真也さんから見た諒真さんは、まだまだ緊張感が足りず、手厚くやった分だけ収入につながることを理解して欲しいと語っていました。

今後の目標は、諒真さんが一人前になってくれることと、地域の農業のために若い農家を増やしたいと力強く語る真也さん。今後の更なる活躍が期待されます。

(普及企画班 仲本 優子)



沖縄県トラクタ耕競技大会&沖縄県農業機械士協議会 30周年記念式典

沖縄県トラクタ耕競技大会が八重瀬町慶座にて開催されました。この大会は農業機械士の資質向上と農作業安全意識の高揚を図り、農業機械化の発展に寄与するため開催されたもので、関係者を含め110名が集まり盛り上がりを見せました。競技は運転操作、安全配慮、耕深、直進性、始端及び終端の整一性等について審査が行われ、各地区から選ばれた代表選手5名が日頃培った技術を競いました。その結果、南部地区代表選手の伊敷博氏(糸満市)が敢闘賞を受賞しました。その後、行われた沖縄県農業機械士協議会30周年記念式典では、昭和62年の初代から平成18年までの20年間会長を務めた金城彰氏(八重瀬町東風平農業機械施設管理センター)と平成25年、26年に会長を務めた渡慶次賀先氏(グリーンいとまん)が功労者として表彰されました。



(地域特産振興班 伊良皆 ゆかり)